

〔尼崎青少年創造劇場の管理・運営（概要）〕

1 ピッコロシアター鑑賞劇場等

優れた舞台芸術を紹介する鑑賞劇場（9事業12公演）を開催するとともに県民参加型イベント「ピッコロフェスティバル」（37団体／参加者3,379人）を開催した。

（1）ベビー・プログラム（旧シアタースタート）

「ヒョーゲンアソビノバ」（7月）、「だがつきスイッチ もつきんコロコロ♪ たいこがポン♪」（9月）

※0～3歳児と子育て中の保護者などを対象にした劇場体験事業

（2）文学座「肝っ玉おっ母とその子供たち」（5月）

（3）ピッコロ寄席 桂米朝一門による5公演（5月～3月）

「桂ざこば一周忌追善落語会」、「桂枝雀一門会」、「桂吉朝一門会」、「桂米團治独演会」、「子どもと楽しむ落語会」

2 ピッコロ劇団事業等

多彩な舞台公演（本公演、ファミリー劇場、わくわくステージ等）（48公演9,599人）を開催するとともに、劇場へのアクセシビリティを高める鑑賞サポートを実施した。

（1）本公演

「新天地へ～ある移民の物語～」（5月・6月）作・演出＝島守辰明（ピッコロ劇団）

「火のようにさみしい姉がいて」（9月・10月）作＝清水邦夫 演出＝眞山直則（ピッコロ劇団）

「リア王」（2月）作＝シェイクスピア 翻訳＝河合祥一郎 演出＝松本祐子（文学座）

（2）オフシアター

Vol.41「ダウトー疑いをめぐる寓話」（4月）

作＝ジョン・パトリック・シャンリ 訳＝鈴木小百合 演出＝中島深志（ピッコロ劇団）

（3）ファミリー劇場

「タラレバ幽霊とタカラの山」（8月・12月）台本＝谷口雅美、原竹志（ピッコロ劇団） 演出＝原竹志（ピッコロ劇団）

（4）ピッコロ・わくわくステージ

「新天地へ～ある移民の物語～」（5・6月）

「タラレバ幽霊とタカラの山」（11・12月）

※中学生向けピッコロ劇団演劇鑑賞体験事業 34校3,303人が鑑賞

（5）おでかけステージ（10月・11月）

「学校ウサギをつかまえろ」 原作＝岡田淳（偕成社刊） 台本＝眞山直則（ピッコロ劇団）

演出＝吉村祐樹（ピッコロ劇団）

※観劇機会の少ない子どもたちの演劇鑑賞体験事業（県内小学校体育館等での上演）

（6）演劇の指導・ワークショップへの派遣（派遣数：50か所）

（7）鑑賞サポート

音声ガイド付き公演（4公演）、バリアフリー字幕付き公演（3公演）、手話通訳・要約筆記付き公演（1公演）

3 人材育成・体験活動事業

（1）ピッコロ演劇学校・ピッコロ舞台技術学校の運営

演劇学校 本科（20名修了）、研究科（21名修了）、舞台技術学校（25名修了）

（2）文化セミナー

<104>落語家桂米團治さんにきく「上方落語を次世代へ！～和の心の尊さ～」（7月335人）

<105>いのうえひでのり×内藤裕敬「オレたちの演劇半生」（9月329人）

（3）文化セミナーラボ

松本工房の本づくり～演劇編～（6月、28人）

直観読みブックマーカー～清水邦夫編～（9月、16人）

レクチャー&トークセッション「シェイクスピア『リア王』を読み解く」（1月、88人）

（4）ひょうごプレミアム芸術デー（7月）

文化セミナー<104>（再掲）及びベビー・プログラム「ヒョーゲンアソビノバ」（再掲）

（5）ピッコロ実技教室（8月）

「40歳からのワンコイン演劇講座」（8月）、「まわしよみ新聞 演劇ワークショップ（壁新聞を演じてみよう）」（8月）、

「ちゃっと！狂言入門編～」（8月）、ピッコロオペラ教室「オペラの楽しみ方」（8月）ほか

（6）芸術文化観光専門職大学等からの研修生受け入れ

4 施設の管理運営事業

【ホール等利用実績】

区 分	利用者数（人）			利用率（％）		
	H30 年度	6 年度	7 年度	H30 年度	6 年度	7 年度
計	130,284	110,950	106,910	92.7	92.0	92.0

〔尼崎青少年創造劇場の管理・運営（評価）〕

1 ピッコロシアター鑑賞劇場等

- （１）鑑賞劇場、ピッコロフェスティバル等の事業を予定通り実施することができた。利用者数はコロナ禍前の水準にほぼ回復した。
- （２）鑑賞劇場入場者のアンケートでは、満足度（「とてもよかった」「よかった」）は、演劇 95.2%、伝統芸能 98.9%と高い評価を得た。

2 ピッコロ劇団事業等

- （１）公演は予定通り実施することができ、入場者は 9,599 人と、わくわくステージへの参加校数や参加者数の減少により、令和 6 年度と比べると若干減少（R6 10,519 人）。
- （２）観客アンケート調査での満足度（「とてもよかった」・「よかった」）は、本公演で 96.5%、ファミリー劇場公演で 98.8%、わくわくステージで生徒 94.0%、教員 95.0%と高い評価が得られた。また、わくわくステージの生徒アンケートでは、「また演劇を見たい」との回答が 91.1%となり、演劇文化の裾野の拡大に寄与することができた。
- （３）聴覚・視覚障害者への鑑賞サポートや在留外国人を対象とした先駆的なワークショップなど、当劇場がこれまで取り組んできた社会包摂事業が高く評価され、先導的な取組として大学やシンポジウム等での講演依頼があるなど全国的にも注目されている。
- （４）主な表彰歴
- ・ひょうご国際交流団体連絡協議会「草の根国際功労賞表彰」（R6.5）
 - ・「内閣府特命担当大臣表彰優良賞」（R6.12）
 - ・第10回貝原俊民美しい兵庫づくり賞（R7.11）
 - ・第4回関西えんげき大賞優秀作品賞「タラレバ幽霊とタカラの山」（R8.2）

3 人材育成事業・体験活動事業

- （１）ピッコロ演劇学校・ピッコロ舞台技術学校の運営は、公立劇場では全国初の取組であり、これまでに、演劇学校本科 1,324 名、同研究科 810 名、舞台技術学校 907 名の計 3,041 名の卒業生を輩出している（令和 7 年度生卒業まで。令和 2 年度体験プログラム修了生を除く）。卒業生の中には、劇団や舞台制作会社などに就職する者がいるなど、地域文化を担う人材の育成に貢献した（満足度調査結果：全体で 95.4%）。
- （２）令和 4 年度から、舞台芸術の魅力を掘り下げる文化セミナーラボを本格的に展開するとともに、「直観読みブックマーカー」という新たな切り口により、ピッコロシアターに初めて来館する顧客を開拓するなどの成果を上げた（観客アンケート調査での満足度 91%）。
- （３）芸術文化観光専門職大学から 10 名の学生を受け入れるなど、中学校・高校・大学との人材育成の連携を深めた。

4 施設の管理運営事業

- （１）令和 7 年度の利用者数は、3 月に音響設備改修工事等を実施し、貸館利用可能日数が減ったため、前年度から 3.6%減の 106,910 人となった。また、利用率はコロナ禍前の水準に概ね戻ってきた。引き続き、施設の安全・安心な管理運営の下、魅力的な事業をより多く提供することにより利用者数の増加に努めていく。
- （２）ピッコロシアター満足度調査（R7.11.1～12.21 実施）では、開館時間で利用者の 81.8%、施設サービスで 85.1%、清潔さで 95.0%、スタッフ態度で 95.1%、施設全体で 93.4%が「満足」又は「大変満足」と回答しており、利用者からは概ね高い評価を受けている。

〔尼崎青少年創造劇場の管理・運営（詳細）〕

1 主催公演事業

（１）ピッコロシアター鑑賞劇場

県民文化の高揚と地域文化の振興を図るため、演劇、伝統芸能などの優れた舞台芸術を紹介する鑑賞劇場を開催した。

また、子どもと大人が一緒に楽しめる演劇や落語会など、明日のひょうごを担う子どもたちに優れた舞台芸術にふれる機会を提供した。

事業名	公演年月日	出演者等 ※ ピッコロ劇団員	入場者数
ピッコロ寄席 「桂ざこば一周忌追善落語会」 (大ホール)	7. 5. 10	出演＝桂米二、桂塩鯛、桂わかば ほか	297
文学座公演 「肝っ玉おっ母とその子供たち」 (大ホール)	7. 5. 24 ～25 (2 公演)	作 ＝ベルトルト・ブレヒト 訳 ＝岩淵達治 演出＝西本由香 出演＝寺田路恵、小林勝也ほか	639
ベイベー・プログラム 「ヒョーゲンアソビノバ」 (中ホール)	7. 7. 12 (2 公演)	出演＝鈴村英理子、至剛 ほか	119
ピッコロ寄席 「桂枝雀一門 南光・雀三郎・文之助 三人会」 (大ホール)	7. 8. 16	出演＝桂南光、桂雀三郎、桂文之、桂雀五郎、桂天吾	387
ベイベー・プログラム 「だがっきスイッチ もっきんコロコロ♪ たいこがポン♪」 (中ホール)	7. 9. 19 (2 公演)	出演＝打楽器デュオ 「だがっきスイッチ」 安永早絵子、安永友昭	77
オペラシアターこんにゃく座 オペラ「ルドルフとイッパイアッテナ」 (大ホール)	7. 12. 7	原作＝斉藤洋（講談社刊「ルドルフとイッパイアッテナ」による） 台本＝いずみ凜 作曲＝信長貴富 演出＝立山ひろみ	378
ピッコロ寄席 「桂吉朝一門会」 (大ホール)	7. 12. 14	出演＝桂あさ吉、桂吉弥、桂よね吉、桂吉の丞、桂弥壱	366
ピッコロ寄席 「桂米團治独演会」 (大ホール)	8. 2. 8	出演＝桂米團治、露の紫、桂米輝、桂米舞	348
ピッコロ寄席 「子どもと楽しむ落語会」 (大ホール)	8. 3. 20	出演＝桂吉弥、桂吉の丞、桂米舞	187
合 計 9 事業			2,798

(2) ピッコロフェスティバル

開館記念日（8月19日）を中心に約1か月にわたり、地域で創造活動に取り組む若者等の演劇、音楽などの成果発表と交流の場として、施設を無償提供するとともに、その鑑賞等を通じた舞台芸術に親しむ機会とするため、県民の参加と協働による「ピッコロフェスティバル」を開催した。

時期：令和7年7月31日（木）～8月31日（日）

場所：ピッコロシアター各ホール

区分	部 門 等	参加団体	出演者数 参加者数	入場者数
県民参加 企画	小・中・高校演劇	7	159	526
	大学演劇・一般演劇	4	98	388
地域団体 連携企画	バリアフリーコンサート	8	59	120
	人形劇フェスタ阪神	13	130	161
	令和の演劇向上委員会	1	34	121
体験企画 【ピッコロ 実技教室】	40歳からのワンコイン演劇講座	—	1	22
	まわしよみ新聞 演劇ワークショップ 「壁新聞を演じてみよう」	—	3	23
	ちやっと！狂言～入門編～	1	4	21
	オペラの楽しみ方	—	2	90
特別企画	ピッコロ劇団ファミリー劇場 「タラレバ幽霊とタカラの山」（再掲）	1	50	843
	ピッコロ寄席 桂枝雀一門 南光・雀三郎・ 文之助 三人会（再掲）	1	7	387
協賛企画	関西二期会オペラ研修所修了オペラ公演	1	20	110
合 計		37	567	2,812

2 ピッコロ劇団公演事業

尼崎青少年創造劇場が長年培ってきた人材育成事業の集大成として創設した県立ピッコロ劇団が、優れた舞台芸術の創造と地域文化の振興をめざして、ピッコロシアター等での演劇公演を中心に、演劇指導、外部出演など多彩な活動を展開した。

【設 立】平成6年4月1日

【劇団代表】岩松 了（劇作家・演出家・俳優）

【客 員】杉本了三（演劇プロデューサー）、
内藤裕敬（劇作家・演出家＝南河内万歳一座）

【劇 団 員】34名（男18名、女16名）（R8.3.31現在）

(1) 劇団公演の実施

大人向け、ファミリー向け、小・中学生向けなど、幅広く良質の創作演劇を提供した。

事 業 名	公演年月日	出演者等 ※はピッコロ劇団員	入場者数
オフシアターVol.41 「ダウトー疑いをめぐる寓話」 (中ホール)	7.4.11 ～13 (5公演)	作＝ジョン・パトリック・シャンリイ 訳＝鈴木小百合 演出＝中島深志（※） 出演＝ピッコロ劇団員	407

事業名	公演年月日	出演者等 ※はピッコロ劇団員	入場者数
第82回公演 「新天地へ～ある移民の物語～」 (大ホール)	7. 5. 31 ～6. 1、 6. 4、 6. 7 ～8 (5公演)	作・演出＝島守辰明 (※) 出演＝ピッコロ劇団員	1, 052
わくわくステージ (5・6月期) 「新天地へ～ある移民の物語～」 (第82回公演と同演目) (大ホール)	7. 5. 30 ～6. 11 (8公演)		1, 855
わくわくステージ市町ホール公演 「新天地へ～ある移民の物語～」 (第82回公演と同演目) (赤穂市文化会館赤穂化成ハーモニーホール大ホール)	7. 6. 23 (1公演)		498
ファミリー劇場 「タラレバ幽霊とタカラの山」 (大ホール)	7. 8. 9 ～10 (4公演)	台本＝谷口雅美、原竹志 (※) 演出＝原竹志 (※) 出演＝ピッコロ劇団員 12月公演 オーディションによる子ども達 が出演	843
わくわくステージ (11・12月期) 「タラレバ幽霊とタカラの山」 (ファミリー劇場と同演目) (大ホール)	7. 11. 27 ～28 12. 2 ～3 (5公演)		950
ファミリー劇場 「タラレバ幽霊とタカラの山」 (県立芸術文化センター阪急中ホール)	7. 12. 20 ～21 (3公演)		816
第83回公演 「火のようにさみしい姉がいて」 (中ホール)	7. 9. 27 ～28 9. 30 ～10. 2 (8公演)	作＝清水邦夫 演出＝眞山直則 (※) 出演＝ピッコロ劇団員	803
おでかけステージ (小学校公演) 「学校ウサギをつかまえろ」 (小学校体育館等)	7. 10. 29 10. 31 11. 3 (4公演)	原作＝岡田淳 (偕成社 刊) 台本＝眞山直則 (※) 演出＝吉村祐樹 (※) 出演＝ピッコロ劇団員	628
第84回公演 ピッコロシアタープロデュース 「リア王」 (県立芸術文化センター阪急中ホール)	8. 2. 13 ～15 (5公演)	作＝シェイクスピア 翻訳＝河合祥一郎 (角川文庫 『新訳 リア王の悲劇』) 演出＝松本祐子 (文学座) 出演＝ピッコロ劇団員ほか 劇団員のほか、関西俳優陣が 出演	1, 747
合 計 10事業		(※)ピッコロ劇団員	9, 599

(参考1) 多様なアクセシビリティに配慮した鑑賞サポートの実施状況

◆ 視覚障害者に向けて音声ガイド付き公演を実施

(1) ファミリー劇場「タラレバ幽霊とタカラの山」

(7. 12. 20～21 兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール)

ピッコロ劇団員による音声ガイドの実施

台本作成／ナレーション：木下鮎美

- (2) わくわくステージ「タラレバ幽霊とタカラの山」(7.11.28、12.3 大ホール)
 ピッコロ劇団員による音声ガイドの実施
 台本作成／ナレーション：木下鮎美

◆ 聴覚障害者向けにバリアフリー字幕付き公演を実施(舞台上で表示)

- (1) 第82回公演「新天地へ～ある移民の物語～」(7.5.31、6.1 大ホール)

ピッコロ劇団員による字幕の実施

字幕作成：眞山直則 オペレーション：吉村祐樹

- (2) わくわくステージ「新天地へ～ある移民の物語～」(7.5.30 大ホール)

ピッコロ劇団員による字幕の実施

字幕作成：眞山直則 オペレーション：吉村祐樹

- (3) 文化セミナー<104>

落語家・桂米團治さんにきく

「上方落語を次世代に！～和の心の尊さ～」(7.7.12 大ホール)

手話通訳、要約筆記字幕付き

(参考2) わくわくステージ参加校数等の推移

年度		公演数	参加校数	鑑賞者数			年度計
				生徒	教員他	計	
平成22年度		5	7校(公立5、私立2)	1,314	84	1,398	1,398
平成23年度		10	13校(公立8、私立5)	2,509	154	2,663	2,663
平成24年度		10	17校(公立11、私立6)	2,828	252	3,080	3,080
平成25年度		12	25校(公立18、私立7)	3,750	335	4,085	4,085
平成26年度	6月	8	13校(公立9、私立4)	1,972	159	2,131	5,238
	10月	8	13校(公立8、私立5)	2,926	181	3,107	
平成27年度	6月	10	19校(公立15、私立4)	3,272	212	3,484	5,711
	10月	8	15校(公立8、私立7)	2,091	136	2,227	
平成28年度	6月	12	32校(公立23、私立9)	3,136	286	3,422	6,041
	11月	8	16校(公立12、私立4)	2,446	173	2,619	
平成29年度	6月	11	31校(公立21、私立10)	3,074	276	3,350	5,976
	11月	8	14校(公立10、私立4)	2,447	179	2,626	
平成30年度	6月	14	36校(公立25、私立11)	3,692	329	4,021	5,660
	11月	6	13校(公立11、私立2)	1,477	104	1,639	
令和元年度	6月	12	29校(公立20、私立9)	3,075	391	3,466	5,728
	11月	8	23校(公立19、私立4)	2,088	174	2,262	
令和2年度	6月	—	(コロナ禍により中止)	—	—	—	1,602
	11月	10	21校(公立14、私立7)	1,466	136	1,602	
令和3年度	6月	8	8校(公立2、私立6)	846	85	931	2,365
	11月	9	14校(公立11、私立3)	1,311	123	1,434	
令和4年度	6月	9	18校(公立6、私立12)	1,942	153	2,095	3,880
	11月	7	17校(公立15、私立2)	1,634	151	1,785	
令和5年度	6月	10	19校(公立10、私立9)	2,746	354	3,100	4,460
	11月	6	16校(公立10、私立6)	1,228	132	1,360	
令和6年度	6月	11	22校(公立9、私立13)	2,080	331	2,411	3,841
	11月	7	15校(公立13、私立2)	1,271	159	1,430	
令和7年度	6月	9	21校(公立9、私立12)	2,044	309	2,353	3,303
	11月	5	13校(公立12、私立1)	826	124	950	

(注) 上記表には中学校以外の学校も含む(特別支援学校、神出学園、山の学校、私立高校など例年数校程度)。

(2) 演劇の指導

大学や高等学校等に劇団員を指導者として派遣することによる演劇ワークショップ等を県下各地で開催した。また、ピッコロ演劇学校においては、本科及び研究科の主任講師、助手をピッコロ劇団員が通年で担当した。

指導先、指導事業名	劇団員	実施年月日	実施場所等
ピッコロ演劇学校 本科 講師	菅原ゆうき 木之下由香 木村美憂	通年	ピッコロシアター
ピッコロ演劇学校 研究科 講師	島守辰明 谷口 遼 中田綾乃	通年	ピッコロシアター
兵庫県立宝塚北高等学校 講師	孫 高宏	通年	兵庫県立宝塚北高校
兵庫県立伊丹北高校 講師	吉江麻樹	通年	兵庫県立伊丹北高校
プール学院高等学校 講師	菅原ゆうき 鈴木あぐり	通年	プール学院高等学校（大阪市）
四天王寺中学校 講師	樫村千晶 三坂賢二郎	通年	四天王寺中学校（大阪市）
近畿大学 准教授	島守辰明	通年	近畿大学
大阪大学大学院人間科学研究科 特任研究員	中田綾乃	通年	大阪大学
クラーク記念国際高校 芦屋キャンパス 講師	中川義文	通年	クラーク記念国際高校 芦屋キャンパス
大阪アニメ・声優&eスポーツ 専門学校 講師	中川義文	通年	大阪アニメ・声優&eスポーツ 専門学校
ヒューマンアカデミー神戸校 講師	眞山直則	通年	ヒューマンアカデミー神戸校
ABC みかげ保育園 講師	亀井妙子	通年	ABC みかげ保育園
やんちゃんこ劇団 上演指導・演出	吉江麻樹 有川理沙	通年	尼崎市内
コトリ会議 客員	原 竹志	通年	—
豊岡市新任職員研修 講師	菅原ゆうき	7. 4. 3	豊岡市役所本庁舎会議室
兵庫県立神崎高校コミュニケー ション能力育成研修 講師	三坂賢二郎 堀江勇気	7. 4. 17	兵庫県立神崎高校
兵庫県立西宮北高校 文化祭上演指導 講師	眞山直則 木村美憂	7. 4. 21 5. 28 6. 14	兵庫県立西宮北高校
兵庫県立鳴尾高校 文化祭演劇指導 講師	中川義文 孫 高宏	7. 4. 22 5. 27 6. 3 6. 7	兵庫県立鳴尾高校
キング醸造（株）新入職員研修 講師	中川義文	7. 4. 25	キング醸造（株）（稲美町）

指導先、指導事業名	劇団員	実施 年月日	実施場所等
兵庫県立夢野台高校教育・心理 類型表現力育成向上ワークシ ョップ 講師	菅原ゆうき 三坂賢二郎	7. 5. 12 12. 15 12. 18 8. 1. 19	兵庫県立夢野台高校
【あつまれピッコロひろば】 養父市立建屋小学校演劇ワー クショップ 講師	孫 高宏 吉江麻樹	7. 5. 13 6. 16	養父市立建屋小学校
日本劇団協議会 やってみようプロジェクト 「ワークショップ にほんご であそぼう！」 講師	菅原ゆうき 木村美憂 大澤寧音	7. 5. 17	加東市福祉センターレクリエ ーション室
	菅原ゆうき 三坂賢二郎 大澤寧音	7. 7. 19 ～21	小野市うるおい交流館エクラ 大会議室
	菅原ゆうき 今井佐知子 木村美憂	7. 9. 6	小野市うるおい交流館エクラ 市民交流ホール
西宮市立西宮東高校 文化祭上演指導 講師	菅原ゆうき 三坂賢二郎 鈴木あぐり 中田綾乃	7. 5. 26 6. 2 6. 9	西宮市立西宮東高校
神戸市立盲学校中学部 演劇 ワークショップ 講師	中川義文	7. 6. 6 6. 20 7. 4	神戸市立盲学校
県立総合教育センター 令和7年度高等学校初任者研 修校外研修 講師	菅原ゆうき 木村美憂 木之下由香 大澤寧音	7. 6. 12 6. 19	兵庫県立総合教育センター (加東市)
藁工ミュージアム「鑑賞サポ ート研究会」オンラインレクチャ ー 講師	菅原ゆうき	7. 6. 28	藁工ミュージアム (高知県)
ピッコロ演劇学校本科 「ういろう売りせりふ」 講師	孫 高宏	7. 7. 3 7. 10	ピッコロシアター
西宮市文化振興財団 にしのみやアクトラボ (演劇ワークショップ) 講師	三坂賢二郎 樫村千晶 菅原ゆうき	7. 7. 29	西宮市立若竹生活文化会館
兵庫県自治研修所 行政特別研修 講師	菅原ゆうき 鈴木あぐり	7. 7. 30	兵庫県自治研修所
大阪市立芸術創造館 25周年記念ワークショップフ ェス企画「原竹志演劇ワークシ ョップ～自分が自分であるこ とからは離れられないとこか ら始める、役作り～」 講師	原 竹志	7. 7. 31	大阪市立芸術創造館
池田市立五月山児童文化センター 演劇ワークショップ 講師	菅原ゆうき	7. 8. 3	池田市立五月山児童文化セン ター
ピッコロ実技教室 まわしよ み新聞&演劇ワークショップ (壁新聞を演じてみよう) 講師	三坂賢二郎 谷口 遼	7. 8. 28	ピッコロシアター 中ホール

指導先、指導事業名	劇団員	実施 年月日	実施場所等
文化セミナーラボ＜９＞ 「直観読みブックマーカー ～清水邦夫編～」アシスタント	岡島大祐 宮崎佳恋	７．９．１０	ピッコロシアター
香川県県民ホール自主企画 「視覚・聴覚障害者に『演劇を 届ける』講演会＆ワークショップ」 講師	菅原ゆうき	７．９．２３	香川県県民ホール第２会議室
【あつまれ！ピッコロひろば】 養父市立建屋小学校上演指導 講師	孫 高宏 吉江麻樹 浜崎大介	７．１０．６ １０．２７ １１．１０	養父市立建屋小学校
兵庫県立阪神特別支援学校 分教室上演指導 講師	中川義文	７．１０．１５ １０．１７ １１．１０ １１．２６ １１．２８	兵庫県立阪神特別支援学校分 教室
神戸松蔭女子学院大学 教育実習指導 講師	吉江麻樹	７．１０．２０	神戸松蔭女子学院大学
尼崎医療生協病院演技指導 講師	中川義文	７．１０．２１ １１．４	尼崎医療生協病院
大阪教育大学教育学部教育協 働学科「チーム学校と教育支 援」 講師	中田綾乃	７．１１．１７	大阪教育大学
兵庫県立神出学園ピッコロ劇 団ワークショップ 講師	中川義文 鈴木大輝	７．１１．２５	県立神出学園
新国立劇場演劇研修所 特別講義 講師	島守辰明	７．１２．８ ～１６	新国立劇場演劇研修所 (東京都)
流通科学大学「公務員特別演習 Ⅱ」演劇ワークショップ 講師	三坂賢二郎	７．１２．２５	流通科学大学（神戸市）
【あつまれ！ピッコロひろば】 尼崎市文化振興財団「おでかけ アルカイック」演劇ワークショ ップ 講師	亀井妙子 森 万紀 菅原ゆうき	８．１．９	尼崎市立下坂部小学校
東京文化会館 Workshop Workshop! コンビビアル・プロジ ェクト 社会共生のためのレクチ ャー＆トレーニング～兵庫県立尼 崎青少年創造劇場を迎えて 講師	菅原ゆうき	８．１．１０	東京文化会館大リハーサル室
明石市民講座 五感で遊ぶ♪ ～誰もが楽しい演劇体験☆～ 講師	中川義文	８．１．１７	明石市立衣川コミュニティ・ センター
三田市立長坂中学校 「探求」授業演劇ワークショップ 講師	樫村千晶 中川義文	８．１．１９	三田市立長坂中学校
西宮市立西宮東高等学校文化 祭上演事前指導 講師	菅原ゆうき	８．２．９	西宮市立西宮東高等学校

指導先、指導事業名	劇団員	実施 年月日	実施場所等
兵庫県立伊丹高等学校 文化祭上演事前指導 講師	吉江麻樹	8. 3. 9	兵庫県立伊丹高等学校
兵庫県立伊丹北高校文化祭 上演事前指導 講師	吉江麻樹	8. 3. 16	兵庫県立伊丹北高校
兵庫県立尼崎稲園高等学校 演劇ワークショップ 講師	亀井妙子 森万紀 樫村千晶 野秋裕香 三坂賢二郎 菅原ゆうき 木村美憂 岡島大祐	8. 3. 17	兵庫県立尼崎稲園高等学校

(3) 外部出演等

他劇団、地域団体等の依頼を受け、演劇公演、放送等での出演や演出などに劇団員を派遣した。

事業等名	劇団員	実施 年月日	開催場所
大阪アニメ・声優&e スポーツ 専門学校授業ゲスト 出演	鈴木大輝	7. 6. 8 11. 2	大阪アニメ・声優&e スポーツ 専門学校
大阪教育大学教育学部教育協働 学科教員と卒業生の対談動画 (クロストーク) 出演	中田綾乃	7. 6. 19 撮影 7. 7 月～ 使用	大阪教育大学
日本劇団協議会主催「日本の劇」 戯曲賞 一次審査員	眞山直則 島守辰明	7. 7 月～	
関西テレビ「ロンダリング」 出演	谷口 遼	7. 7. 25 放映	関西テレビ
神戸ドラマ倶楽部第 29 回公演 「《不思議の国のアリスの》帽子 屋さんのお茶の会」 演出	中川義文	7. 8. 9、 10	道化座 IWAYA スタジオ（神戸 市）
万博関連事業ひょうご楽市楽座 西播磨県民局「白旗城スペクタ クルショー」 企画・台本・演出・出演・制作	眞山直則 堀江勇氣 銭 大亮 今仲ひろし 木村美憂 大澤寧音	7. 8. 16、 17、 23、 24	ひょうご楽市楽座（尼崎市）
京都芸術大学大学院修士論文の ためのインタビュー 話し手	孫 高宏	7. 8. 28	ピッコロシアター内
NHK 連続テレビ小説「ばけばけ」 出演	今仲ひろし	7. 9. 29 ～放映	NHK
松竹創業 130 周年「大阪は踊 る！」 出演	岡田 力	7. 10. 4 ～12	大阪松竹座（大阪府）
平和を想う絵本と歌の会 2025 出演	中川義文	7. 10. 11	コーヒーショップ レガート （神戸市北区）

事業等名	劇団員	実施 年月日	開催場所
MODE 公演 「プンティラの旦那と下男のマ ッティ」 出演	孫 高宏	7.10.17 ～26	座・高円寺（東京都）
ピッコロ演劇学校研究科前期発 表会（Piccolo Passo） 照明・音響	浜崎大介 三坂賢二郎	7.11.1 ～2	ピッコロシアター中ホール
尼崎市立北図書館おはなし BOX 企画・台本・出演	吉江麻樹 有川理沙 岡島大祐 銭 大亮	7.11.29	尼崎市立北図書館
コトリ会議、きいの会「桃と夜 の車」 執筆協力	原 竹志	7.12.2 ～4	伊丹アイフォニックホールレ ストランエリア
神戸クラシック協会「季（とき） コンサート vol.13」 構成・演出・出演	中川義文	7.12.21	長田区文化センター別館ピフ レホール（神戸市）
みんなのあま咲き放送局 「あま咲きイブニング」 出演	吉江麻樹 有川理沙	7.12.23	みんなのあま咲き放送局
NHK BS 時代劇「浮浪雲」 出演	今仲ひろし	7.1.4 放映	NHK BS
七の会第4回公演 二人芝居 3 本立て『新世界ブルース』 演出	菅原ゆうき	8.1.29 ～2.2	一心寺シアター倶楽（大阪市）
ラジオ関西『平田オリザの舞台 は但馬』 出演	谷口 遼	8.2.5 放送	ラジオ関西
演劇引力広島第22回プロデュ ース公演 『はぐらかしたり、もてなした り』 音声ガイド	木下鮎美	8.2.21	JMS アステールプラザ 多目 的スタジオ（広島県）
二兎社特別企画 ドラマリーディング8 出演	鈴木めぐり	8.3.7 ～8	東京芸術劇場シアターウエス ト
おはなし BOX in 赤穂市 企画・台本・出演	吉江麻樹 有川理沙 岡島大祐 銭 大亮	8.3.8	赤穂市文化会館 赤穂化成ハ ーモニーホール 展示室
G・E-JAPAN エンターテーメン ト vol.6 衣装製作	亀井妙子	8.3.14 ～15	新開地アートひろば（神戸市）
やんちゃんこ劇団第6回公演 「ザ サウンド オブ 尼崎」 脚本・演出・音楽・公演スタッ フ	吉江麻樹 有川理沙 谷口 遼	8.3.21 ～22	尼崎市立中央北生涯学習プラ ザ小ホール

（４）ピッコロサポートクラブへの支援

尼崎商工会議所等が中心となって、平成8年に設立されたピッコロ劇団の後援会組織である「ピッコロサポートクラブ」の活動支援として、情報誌『into』発行など会員向けサービス事業を共同実施した。

- 【会員数(口数)】 法人会員・個人会員計 357 口 (R8. 3. 31 現在)
- 【情報誌の発行】 年 4 回発行 (A5版、20ページ)、約14, 000部発行
- 【会員向け事業】 ピッコロ劇団公演チケット招待、稽古場見学会、茶話会、総会・交流会など。また、会員共通特典として、ピッコロシアター自主事業の 1 割引、優先予約など。

3 人材育成・体験活動事業

(1) ピッコロ演劇学校・ピッコロ舞台技術学校の運営

演劇創造について幅広く学ぶ演劇学校(本科 昭和 58 年開設、研究科 昭和 59 年開設)、音響・照明・美術などの基礎技術を学ぶ舞台技術学校(平成 4 年開設)を運営している。関西・日本を代表する演劇人、舞台技術者等を講師陣に迎え、プロ、アマチュアを問わない演劇関係人材や地域の文化活動リーダー、文化施設スタッフ等の養成を継続した。

区 分	ピッコロ演劇学校	ピッコロ舞台技術学校
概 要	舞台づくりの楽しさや面白さを味わいながら、表現力や創造力を身につける等、将来の演劇創造者、地域に根差した文化活動リーダーを養成	クリエイティブな地域文化のステージづくりと文化施設運営の活性化を図るため、舞台芸術を支える美術、照明、音響の舞台技術者を養成

期 間	7. 4. 22～8. 3. 8 (本科、研究科)	7. 4. 22～8. 3. 8 (音響、照明、美術)
場 所	ピッコロシアター	ピッコロシアター、 県立芸術文化センター (特別授業)
授 業	原則、毎週 2 回 (火・木の夜間)	原則、毎週 2 回 (水・金の夜間)
講 師	■本科 ▶主任講師 菅原ゆうき (※) 他 ■研究科 ▶主任講師 島守辰明 (※) 他	■美術コース ▶主任講師 加藤登美子 (大阪芸術大学 准教授・舞台美術家) ■照明コース ▶主任講師 水野雅彦 (舞台照明家) ■音響コース ▶主任講師 金子彰宏 (県立芸術文化セン ター舞台技術部副部長 兼主任舞台技術専門員)
特別講師	平田オリザ、鐘下辰男、稲葉賀恵	山北史郎、服部 基、堀尾幸男
生 徒	本科 入学 21 名 修了 20 名 研究科 入学 23 名 修了 21 名	入学 28 名 修了 25 名 [美術 3 名、照明 13 名、音響 9 名]

※はピッコロ劇団員

【特別講義】

区 分	期 日	特 別 講 師	講義テーマ
演劇学校	7. 6. 1	平田オリザ (劇作家・演出家、劇団青年 団主宰、芸術文化観光専門職大学学長)	演劇を学ぶとは…
	8. 1. 11	稲葉賀恵 (演出家・文学座)	演出について
	8. 1. 24～25	鐘下辰男 (劇作家・演出家、演劇企画集 団 THE ガジラ主宰、桜美林大学教授)	演技の基本

区 分	期 日	特 別 講 師	講義テーマ
舞台技術 学校	7. 5. 18	堀尾幸男(舞台美術家)	舞台美術のはじまり
	7. 7. 6	山北史郎(サウンドデザイナー、 (株) 山北舞台音響 代表取締役)	音の話～音響効果の基礎～
	7. 7. 20	服部 基(舞台照明家、(株)ライテ ィングカンパニーあかり組 顧問)	照明の表現

【前期発表会 2025 Piccolo Passo ～小さな一歩～】

区 分	期 日	公 演 概 要	観客数
演劇学校本科 42 期生	7. 10. 25 7. 10. 26	「いっしょ」～4つのオムニバス～	141
演劇学校研究 科 41 期生	7. 11. 1 7. 11. 2	「どん底で」シーン発表 (原作マキシム・ゴーリキー「どん底で」)	123

【オープンキャンパス】

区 分	期 日	概 要	参加者数
舞台技術学校	7. 12. 16	学校説明、オペレーション体験、バックステージツアー	15
演劇学校	8. 1. 17	学校説明、現役学校生と一緒に身体訓練等の授業体験	24

【卒業公演（大ホール）】

区 分	期 日	公 演 概 要	観客数
演劇学校 本科 42 期生 舞台技術学校 33 期生	8. 3. 7 ～ 8	演目「ナイツイミング」 作＝弦巻啓太（弦巻楽団） 出演＝演劇学校本科 42 期生 20 名 美術プラン・製作・操作 ＝舞台技術学校生美術コース 3 名 照明プラン・操作 ＝舞台技術学校生照明コース 13 名 音響プラン・編集・操作 ＝舞台技術学校生音響コース 9 名	548
演劇学校 研究科 41 期生		演目「どん底で」シーン発表 原作＝マキシム・ゴーリキー「どん底で」 台本・演出＝島守辰明（※） 出演＝演劇学校研究科 41 期生 21 名	

※はピッコロ劇団員

（2）ピッコロ・山根演劇賞の贈呈

令和 7 年度のピッコロ演劇学校生及び舞台技術学校生のうち成績優秀で他の模範となる者及びピッコロ劇団員のうち優れた演劇活動を行った者に贈呈した。

対 象 者	備 考
演劇学校本科(42 期生) 演劇学校研究科 (41 期生) 舞台技術学校 (33 期生) 各 1 名計 3 名	サントリー地域文化賞の副賞をもとに平成元年 3 月に創設。 その後、神戸新聞奨励賞、久留島武彦文化賞、紀 伊國屋演劇賞の賞金、山根淑子氏の寄付等により 基金額を増額。
有川理沙 谷口 遼 ピッコロ劇団員 2 名	

(3) ピッコロシアター文化セミナー

著名な舞台人による講演、専門家による伝統芸術の紹介・解説などの教養講座を開催し、舞台芸術への関心を高め、地域文化の振興を推進した。

(大ホール)

事業名	期 日	出演者等	入場者
<104> 落語家 桂米團治さんにきく 上方落語を次世代へ！～和の心 の尊さ～	7. 7. 12	出演＝桂米團治 聞き手：露の紫	335
<105> オレたちの演劇半生	7. 9. 27	出演＝いのうえひでのり（劇団 ☆新感線）、内藤裕敬 （南河内万座一座）	329

(4) ピッコロシアター文化セミナーラボ

文化セミナーラボは、従来の文化セミナーに加え、これまでピッコロシアターに馴染みのなかった層にも理解者・ファンを広げるため、舞台芸術の周辺での興味深いテーマを扱う、小規模で実験的なセミナーを開催した。

事業名	期 日	出演者等	入場者
文化セミナーラボ<8> 松本工房の本づくり～演劇編～	7. 6. 14	講師：松本久木	28
文化セミナーラボ<9> 直観読みブックマーカー ～清水邦夫編～	7. 9. 1	講師：陸奥賢 助手：岡島大祐、宮崎桂恋	16
文化セミナーラボ<10> レクチャー&トークセッション シェイクスピア「リア王」を読み 解く	8. 1. 22	講師：栞山智成 ゲスト：松本祐子、孫 高宏	88

(5) ひょうごプレミアム芸術デー

開催日：7月12日(土)

内 容：

- ①ピッコロシアター文化セミナー[参加者 335 人]（再掲）
- ②ベイビー・プログラム ヒョーゲンノアソビバ[参加者 119 人]（再掲）

(6) 研修生等の受け入れ

開かれた劇場として、インターンシップをはじめとした研修生（中学生、高校生、大学生、教職員等）を、年間を通して内外から受け入れた。

《7年度の受入状況》

- ・芸術文化観光専門職大学（10名）、その他大学（41名）、
高校生（1名）、中学生（7名）、社会人（1名）、その他（8名）
- ・劇場見学：大阪府立咲くやこの花高等学校演劇科 39名
七つ松幼稚園 26名
武庫川女子大学建築学科劇場設計 50名
尼崎市立上坂部小学校2年生 157名

(7) ピッコロ実技教室（再掲）

伝統芸能や演劇等の体験的学習、解説をまじえた実技教室を開催し、舞台芸術への関心を高め将来の鑑賞者の育成を図った。

＜参加者数は（２）ピッコロフェスティバルに記載＞

区分	事業名	期 日	出演者（指導者）等
演劇	演劇ワークショップ「40 歳からのワンコイン演劇講座」	7. 8. 13	大手前大教授 瀬口昌生（元ピッコロ劇団員）
	令和の演劇向上委員会	7. 8. 26	高校演劇研究会阪神支部
	まわしよみ新聞&演劇ワークショップ〈壁新聞を演じてみよう〉	7. 8. 28	講師：三好正文（神戸新聞）、 三坂賢二郎（ピッコロ劇団員）、 谷口遼（ピッコロ劇団員）
伝統 芸能	ちゃっと！狂言～入門編～	7. 8. 23 ～24	指導：善竹隆司・善竹隆平（能楽師大蔵流 狂言方）
オペラ	オペラの普及をめざして 関西二期会オペラ研修所との連携企画		
	ピッコロオペラ教室 「オペラの楽しみ方」	7. 8. 29	講師：関西二期会理事 小餅谷哲男
	関西二期会オペラ研修所修了公演 演目「歌劇 愛の妙薬」	7. 8. 30	関西二期会オペラ研修所第 61 期生 ほか

4 地域の関係機関との連携

（１）尼崎市ティーンズサポート事業への参加

尼崎市が市内外の 10 代の青少年の舞台鑑賞を支援するため、低廉な入場料（500 円）で鑑賞機会を提供する「ティーンズサポート事業」に協力（14 名鑑賞）

（２）日興油脂の劇場招待事業

日興油脂株式会社（尼崎市）の支援を得て、こども食堂を利用している地元尼崎市内の子どもたちをピッコロ劇団ファミリー劇場へ招待（52 名観劇）

（３）兵庫県阪神南県民センターの劇場招待事業など

「青少年文化スポーツ体験事業」による招待

ピッコロ劇団ファミリー劇場（８月）に親子ペアを招待（50 組 100 名観劇）

（４）やってみようプロジェクト（文化庁・日本劇団協議会事業）等の協力参加

地域団体（市／地域国際交流協会）が実施する地域在住の外国人等を対象としたやさしい日本語を使ったコミュニケーションワークショップ「ワークショップ にほんごであそぼう！」（ピッコロ劇団員がファシリテーター）を開催。

※小野市うるおい交流館エクラとの連携で開催

（２回：計 35 名参加（うち外国人 28 名））

※加東市・加東市国際交流協会との連携で開催

（１回：計 22 名参加（うち外国人 15 名））

5 配信

令和7年度は、SNSを活用し公演情報や劇団員の様子を記す短い動画をX（旧ツイッター）およびInstagram（R7年8月～）等に多数投稿した。

月	Facebook		X		Instagram(学校)		Instagram(劇団)	
	投稿数	フォロワー累計	投稿数	フォロワー累計	投稿数	フォロワー累計	投稿数	フォロワー累計
4	2	930	39	1,665	5	1,115		
5	5	930	65	1,679	22	1,153		
6	2	933	51	1,687	20	1,174		
7	2	933	72	1,689	19	1,187		
8	3	935	47	1,703	0	1,197	8	60
9	1	933	80	1,717	19	1,209	40	125
10	1	933	59	1,716	28	1,208	3	137
11	1	934	36	1,726	19	1,211	0	145
12	0	936	56	1,730	17	1,218	15	164
1	1	937	52	1,735	17	1,222	8	170
2	1	936	37	1,746	17	1,230	4	247
3	2	935	29	1,762	8	1,251	11	304
合計	21	935	623	1,762	191	1,251	89	304

6 施設の管理運営事業

（１）劇場施設の利用状況

「県立尼崎青少年創造劇場（ピッコシアター）」の指定管理者として、鑑賞劇場等の自主事業を実施するとともに施設の適切な管理と運営を行った。また、演劇、音楽、舞踊等の舞台芸術を創造しようとする県民にホールや練習室等を広く提供した。

【所在地】 尼崎市南塚口町3丁目17番8号

【施設】 大ホール(客席数 396 席)／中ホール(収容 200 人)／小ホール(収容 100 人)
楽屋(6 室)／練習室(3 室)／資料室(閲覧室・書庫)／舞台美術工房等

【ホール等利用実績（7 年度）】

利用者数 106,910 人（前年度同期 110,950 人）

利用率 92.0%（前年度同期 92.0%）

【利用状況】

区 分	利用者数（人）		利用率（％）	
	6 年度	7 年度	6 年度	7 年度
大ホール	46,603	43,200	94.5	94.8
中ホール	14,608	15,431	92.2	92.2
小ホール	17,382	17,240	90.6	90.6
練習室	16,463	16,220	91.5	91.6
閲覧室等（R3.1～）	14,866	14,078	—	—
書庫（R3.1～）	1,028	741	—	—
計	110,950	106,910	92.0	92.0

（注）展示室及び資料室は令和元・2 年度の大規模改修工事により閲覧室及び書庫にリニューアル。閲覧室及び書庫は令和3 年1 月より供用開始。

【利用料収入】

区 分		利用料収入（円、税込）	
		6 年度	7 年度
ホ ー ル 等	大ホール	6,786,800	6,736,150
	中ホール	1,897,050	1,704,800
	小ホール	2,501,750	2,453,600
	楽屋	858,500	804,850
	練習室	2,081,200	2,323,850
	ホール等計	14,125,300	14,023,250
付属設備		6,984,250	6,759,100
合 計		21,109,550	20,782,350

（参考）近年実施した主な施設改修

《R7 年度》

- ・大ホール音響設備改修工事 (R7)
- ・大ホール舞台吊物設備修繕工事 (R7)
- ・大ホール客席後方ダウンライト照明改修工事 (R7)
- ・大ホール袖等 LED 化改修工事 (R7)
- ・別館 LED 化改修工事 (R7)
- ・小ホールスポットライト LED 交換工事 (R7)
- ・防犯カメラ増設（館内・駐車場）(R7)
- ・本館西側外壁堅樋等更新工事 (R7)

《H29～R6 年度》

- ・火災受信機更新 (R6)
- ・時計設備更新 (R6)
- ・情報館機器更新 (R6)
- ・事務所ネットワークサーバー更新 (R6)
- ・正面玄関電子錠導入 (R6)
- ・旧喫茶室改修 (R5)
- ・防犯カメラ及び AP 追加 (R5)
- ・事務室 LED 化 (R5)
- ・敷地内高木剪定 (R5)
- ・中ホールロビー空調修理 (R5)
- ・大ホール音響室空調修理 (R5)
- ・大ホール客席誘導灯修繕工事 (R4)
- ・大ホールワイヤレスマイク設備更新 (R4)
- ・中ホールスピーカー更新工事 (R4)
- ・中小ホール搬入口重量シャッターの修理 (R4)
- ・外部 2 階エントランス等防水工事 (R4)
- ・ホール天井照明の LED 化 (R4)
- ・動画配信のための Wi-Fi 整備（各ホール・楽屋・練習室・閲覧室及び別館稽古場）(R3)
- ・ホールのロスナイ（換気システム）の改修 (R3)
- ・別館稽古場への換気設備改修 (R2)
- ・大ホールホワイエに障害者等対応エレベーターを設置 (R2)
- ・展示室を劇場利用者同士の交流が図れる閲覧スペース等に改装、書庫を整備 (R1-2)
- ・ホール天井照明の LED 化、練習室の防音換気機能向上 (R1-2)
- ・小道具等が製作できる舞台美術工房を大ホール B 1 階に整備 (R1)
- ・トイレの完全洋式化、おむつ交換台、授乳室の設置 (H29-R1)

(2) 情報の提供・発信

① 演劇等舞台芸術関係資料の提供

青少年などの幅広い創造活動を支援するため、令和元年度に整備したピッコロシアター資料室（閲覧室・書庫）において、演劇・音楽・舞踊などの舞台芸術専門書等の閲覧・貸出を行うとともに、照会にも適切に対応した。

【資料室（閲覧室・書庫）について】

- ・開室時間：10:00～18:00（資料の閲覧請求・貸出受付時間：13:00～17:00）
- ・1人3冊、2週間まで貸出
- ・蔵書検索システム（スマホ対応）・閲覧室内の検索システム端末などで資料を検索
《蔵書検索へのアクセス》<https://piccolo-library.opac.jp>
- ・閲覧室で自由に閲覧可能
- ・閲覧室には、高校演劇などの台本を設置（開架式）

	6年度	7年度
閲覧状況	646名	741名
貸出状況	319冊	192冊

② ホームページの運営

主催事業や劇団公演等をタイムリーに発信した。

【アクセス数】

6年度	7年度
79,114件	76,017件

③ SNSの活用（再掲）

劇場や演劇学校の日々の動きや公演に向けた劇団員の稽古風景等を発信した。

- ・X（旧ツイッター） フォロワー数 1,762人（R8.3.31時点）
- ・フェイスブック フォロワー数 935人（R8.3.31時点）
- ・Instagram（学校） フォロワー数 1,251人（R8.3.31時点）
- ・Instagram（劇団） フォロワー数 304人（R8.3.31時点）

④ 貸館予約システムの導入

令和5年度より、ホールや練習室の空き情報を常時ウェブサイト上で公開するとともに、練習室については、利用者登録をした後にウェブサイト上で仮押さえができる運営を行い、利便性の向上を図った。

⑤ オンラインチケットシステムの導入

24時間いつでもオンラインで残席を確認しながら予約が可能になった（令和7年12月から一部公演で実施スタート）。

⑥ 定期刊行物の発行・配付

月間催し物案内（毎月）やピッコロ劇団後援会機関紙「into」（年4回、各2,000～4,000部程度）を発行し、来館者、近隣の公共施設や文化施設等に配付した。

⑦ 芸術文化情報コーナー

館内エントランスホールに芸術文化情報コーナーを設置し、県内外施設の芸術文化関連のイベント、チラシや情報誌を配架することで来館者に情報提供した。

⑧ 広報媒体を通じた発信

- ・ 定期的なプレスリリース送付に加え、公演形態・稽古スケジュール等に応じた記者会見や稽古取材、個別インタビュー、新聞社訪問、劇団員等の在阪メディアへの出演を適宜実施した。
- ・ 地元FM局にピッコロシアター・ピッコロ劇団コーナーを運営。
FM BLOOM (旧FM尼崎)「こちら阪神南県民センターです」
(約2カ月に1回、劇場の事業紹介)
FM宝塚「ピッコロ劇団公演情報」(毎月第2木曜)
FM伊丹「伊丹の広がりピッコロコーナー」(毎月第3月曜)
FM西宮「LALALA にしきた 90 分」(不定期)

7 その他、施設利用者の利便性向上への取組（収益事業）

- ・ 飲料自動販売機1台の設置（R6.4～）

〔県立美術館王子分館の管理・運営（概要）〕

1 原田の森ギャラリーの管理・運営

（1）貸しギャラリーの適正な運営

地域のプロ・アマチュア芸術家、芸術文化団体の作品発表の場として、また、県民がさまざまな芸術文化に触れ、交流する場となるよう、ギャラリー運営会議の助言を得ながら、ギャラリーの適正で、効率的な運営に努めた。

【来館者数】145,954人 【展示室の利用率】92.4%

（2）ギャラリーの利便性向上

全ての展示室利用者には、利用前に必ず打合せを行い、適切なアドバイスをするとともに、利用者のニーズに対応した。また、定期的に備品類の状態を点検し、不具合のあるものは改修を行い、安心安全な管理運営に努めた。

2 横尾忠則現代美術館の管理・運営

（1）横尾作品を中心とした展覧会

髑髏をテーマとした「復活！横尾忠則の髑髏まつり」や横尾氏の作品世界を紹介する用語で構成した辞書仕立ての展覧会「大横尾辞苑」など、ユニークな切り口で横尾芸術の魅力を紹介する企画展を開催した。

【来館者数】48,600人 【展覧会の入場者数】26,454人 ※①

① 横尾忠則の肉体派宣言展

期 間：令和7年5月24日（土）～8月24日（日）（80日）

入場者数：7,889人

② 復活！横尾忠則の髑髏まつり

期 間：令和7年9月13日（土）～12月28日（日）（92日）

入場者数：9,348人

③ 大横尾辞苑 ～これであなたもヨコオ博士!?

期 間：令和8年1月31日（土）～5月6日（水・振休）（83日）

入場者数：5,063人（令和8年3月末時点） ※全期間 9,206人

（2）アーカイブ資料の整理・公開

横尾氏から受け入れているデザイン原稿、書籍等の整理を進め、順次「アーカイブ資料リスト」として公開した。（整理済 11,112点、ウェブ公開リスト 4,473点）

（3）ひょうごプレミアム芸術デーの実施

県民が気軽に芸術文化に触れる機会を提供する「ひょうごプレミアム芸術デー」を実施した。

期 間 7月9日～15日（無料開放6日間、入場者 1,335人）

主な内容 音遊びと大友良英 in Y+T MOCA（7月12日）

自由に話せる観覧日（7月13日） ※毎月第2日曜日に実施

（4）美術館の魅力や情報の発信

来館者数の増加に向け各種のイベントの開催のほか、横尾作品の魅力や展覧会情報等を様々なツールを活用して発信した。

〈主な取組〉

- ・オープンスタジオコンサート（4回、参加者474人）
 - ・キュレーターズ・トークと同動画のYouTube配信（参加・視聴9,138人・回）
 - ・SNS広告（Facebook, Instagram）による発信（ホームページ誘導10,905回）
 - ・訪日旅行者向けサイト（WABITABI）への広告配信（ホームページ誘導5,616回）
- ※外国人来館者数603人（R6年度400人）

※① 展覧会入場者にはR6実施「横尾忠則の人生スゴロク展」R7.4.1～5.6入場者数4,154人も含む。

〔県立美術館王子分館の管理・運営（評価）〕

1 原田の森ギャラリーの管理・運営

（１）施設の利用状況

令和 7 年度の展示室利用率は、平成 14 年開館以来、過去 3 番目の利用率となった。来館者数は、前年度比 99.6%とほぼ同程度であった。

年 度	R 2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
利用率	48.3%	80.5%	89.4%	91.5%	91.8%	92.4%
来館者数	54 千人	101 千人	132 千人	132 千人	147 千人	146 千人

（２）利用者からの評価

展示室利用者を対象としたアンケート調査において、「職員の応対」、「備品等の種類」、「施設を利用した全体的な満足度」では、全ての回答が「非常に満足」又は「満足」と評価された。利用者からは「職員の方々が親切、丁寧にサポートしてくれた」、「展示備品類が整然と管理されており、大変使いやすい」、「静かで落ち着いた雰囲気が気に入った」との声が多かった。

2 横尾忠則現代美術館の管理・運営

（１）横尾作品を中心とした展覧会

髑髏をテーマとした「復活！横尾忠則の髑髏まつり」や横尾氏の作品世界を紹介する用語で構成した辞書仕立ての展覧会「大横尾辞苑」など、ユニークな切り口で横尾芸術の魅力を紹介する企画展を開催し、来場者の96%から「満足」の評価を得た。

入場者数は 2 万 6 千人余りと前年度より減少したが、コロナ禍前（H26～31年度）の平均 25,324人は確保できた。

（２）アーカイブ資料等の活用

アーカイブ資料は、適宜展覧会で活用しており、特に「復活！横尾忠則の髑髏まつり」では、横尾氏デザインの食器やサンダルなど髑髏をモチーフとしたグッズを多数展示し、横尾氏のこれまでの歩みへの理解を深める機会となった。また、外部の美術館関係者や研究者の依頼に応じて閲覧等に供するなど、横尾芸術の研究等に寄与できた。

（３）ひょうごプレミアム芸術デーの実施

展覧会の無料開放期間には、通常の約 2.5 倍の入場者（6 日間で 1,335 人）があったほか、「音遊びの会」と大友良英氏によるライブは満席となるなど、幅広い人々に横尾忠則現代美術館を知っていただくとともに、横尾作品の魅力に触れていただく機会となった。

（４）美術館の魅力や情報の発信

従来からのポスター等の広報やイベントに加え、新型コロナを契機に始めた「キュレーターズ・トーク」のYouTube発信やSNS広告により、美術館及び展覧会の魅力をより広く発信できたことが、展覧会の集客に一定の効果があつたと考えられる。

大阪・関西万博、神戸空港の国際線就航等を踏まえ、訪日旅行者向けの広報も行った結果、外国人来館者数が増加した。

〔県立美術館王子分館の管理・運営（詳細）〕

兵庫県立美術館王子分館の指定管理者として、横尾忠則現代美術館において展覧会やコンサートなど各種催しを開催し、芸術文化に関する情報発信や情報収集を行った。また、原田の森ギャラリーでは、地域のプロ・アマチュア芸術家の発表の場としての役割を果たすよう管理・運営に努めた。

【所在地】 神戸市灘区原田通3丁目8番30号

【施設】 〈原田の森ギャラリー〉 本館（1・2階展示室）、東館（1・2階展示室）、会議室等（5室）

〈横尾忠則現代美術館〉 アーカイブルーム、展示室（2・3階）、コレクションギャラリー、休憩・交流スペース
オープンスタジオ、ミュージアムショップ、インフォメーション

〈喫茶棟〉

〈附属駐車場〉 31台

1 原田の森ギャラリーの管理・運営

（1）貸しギャラリー等の実施

公立美術館としては全国最大規模となる貸しギャラリーや実技教室を活用した洋画・日本画・書道・彫塑等の作品発表、並びに絵画教室等が開催されたとともに、造形芸術の活動・交流・情報発信拠点づくり及び創作活動の発表の場づくりに努めた。

【来館者数】 145,954人

【利用状況】 *（ ）内 対前年比

施設名	室数等	開館日数	利用日数	利用率等
展示室	4室	1,228日	1,135日（101.0%）	92.4%（100.7%）
会議室等	5室	1,535日	1,043日（102.9%）	67.9%（102.4%）
駐車場	31台	307日	307日（100.3%）	16,416台（104.1%）

【利用料収入状況】 *（ ）内 対前年比

区 分	金 額	区 分	金 額
展示室	23,087,360円（102.8%）	附属設備	704,215円（132.7%）
会議室等	6,531,190円（103.0%）	駐車場	9,236,200円（106.8%）
収蔵庫	5,404,600円（87.3%）	利便施設	541,611円（100.0%）
		合 計	45,505,176円（101.8%）

（2）ギャラリー運営会議の実施

広く公平・適正な利用を推進するとともに、効率的・計画的なギャラリー運営の円滑化を図るため、絵画、美術・工芸、書等の専門家で構成されるギャラリー運営会議を開催し、貸出計画案の承認を得た。令和7年度については、令和7年4月から令和9年3月までの利用調整のため、3回の運営会議を開催した。

第1回運営会議 令和7年5月15日／第2回運営会議 令和7年9月18日

第3回運営会議 令和8年2月4日

（3）情報の提供・広報

① ホームページの運営（<https://hyogo-arts.or.jp/harada>）

【内 容】施設概要、利用案内、空室情報、展覧会案内 等

② 催し物案内の配布

2 横尾忠則現代美術館の管理・運営

令和7年度は、横尾忠則氏の作品等が鑑賞できる展覧会を3本開催した。

【来館者数】48,600人 【展覧会の入場者数】26,454人 ※①

(1) 横尾作品を中心とした展覧会の開催

展覧会名	横尾忠則の肉体派宣言展
開催期間（日数）	令和7年5月24日（土）～8月24日（日）（80日）
入場者数（人）	7,889人（うち有料入場者4,897人、有料入場率62.1%）
展示内容	横尾の創作における主体・客体両方の視点から、肉体について考える展覧会。横尾の身体性がはっきりと見て取れる、身体の動きがよく伝わる作品を集めた「描く肉体」（当館で行われた公開制作の記録映像も上映）、どのような身体を描いてきたかに着目した「描かれる肉体」、肉体そのものがなくなった世界について考える「肉体を超えて」の全3章により構成した。 【出品点数：82点】

展覧会名	復活！横尾忠則の髑髏まつり
開催期間（日数）	令和7年9月13日（土）～12月28日（日）（92日間）
入場者数（人）	9,348人（うち有料入場者6,961人、有料入場率74.5%）
展示内容	生命力に満ち溢れた横尾忠則の作品に漂う「死」の影。骸骨や首吊りのロープのような暗示的な記号から、空襲で赤く染まった空や亡くなった同級生の写真など自身の記憶に由来するモチーフまで、様々な「死」のかたちが、鮮やかに力強く、観る者を挑発する。本展は2020年、コロナ禍により開幕直前で中止となった「横尾忠則の髑髏まつり」を再構成したものである。 【出品点数：約200点（アーカイブ資料を含む）】

展覧会名	大横尾辞苑 これであなたもヨコオ博士!?
開催期間（日数）	令和8年1月31日（土）～5月6日（水・振休）（83日間）
入場者数（人）	5,063人（3月末時点の人数。うち有料入場者3,864人、有料入場率76.3%） ※全期間 9,206人
展示内容	展示空間を辞書・辞典に見立てた、親しみやすい展覧会。ひらがな46文字、アルファベット26文字にそれぞれ対応した作品を、辞書風の分かりやすい解説文とともに楽しく鑑賞することで、横尾芸術に気軽に親しむ機会とした。 【出品点数：139点】

※① 展覧会入場者にはR6実施「横尾忠則の人生スゴロク展」R7.4.1～5.6入場者数4,154人も含む。

(2) 貴重なアーカイブ資料の整理と公開

横尾氏から寄託されたイラストやポスター、デザイン原稿をはじめ、蔵書・関連記事の掲載誌、レコード収集品などのアーカイブ資料について、順次、整理・公開した。

また、資料整理や保管環境維持のための作業をより円滑に行うため、博学連携として、主に県内の大学から博物館実習生やインターン生を受け入れた。

① 整理

(ア) 整理済み資料 11,112点（うちウェブサイト公開 4,473点）＊個人情報を含む資料は除外

(イ) 実習生等の受入れ

- ・博物館実習生：甲南大学、神戸芸術工科大学、関西学院大学ほか12校から24名
- ・インターン生：神戸芸術工科大学1名

② 公開等

(ア) 整理済み資料については閲覧可能（無料、要予約、個人への貸出不可）

・これまでの利用実績：109 件（美術館関係者、研究者、学生等）

(イ) 企画展等での展示

(3) オープンスタジオを活用した多彩なイベントの実施

① 企画展関連事業

楽しく鑑賞できるよう見どころを学芸員が分かりやすく解説するキュレーターズ・トークを展覧会ごとに実施したほか、来館を促し集客につなげるため、その映像をホームページで公開した（YouTube 配信）。これらの動画は、1 階オープンスタジオでも常時放映しており、作品鑑賞前後の来館者によく視聴され、好評である。

また、知的な障害のある人を含むアーティスト集団「音遊びの会」と全国的に活躍するミュージシャン・大友良英氏による即興演奏イベントを行い、その映像も配信している。

〔横尾忠則の肉体派宣言〕

(令和 8 年 3 月末時点)

事業名	開催・配信日	出演者・講師	参加者数
キュレーターズ・トーク	R7. 6. 21 6. 29 7. 19 8. 16	当館学芸員	138 人
PR 動画	R6. 7. 1～	同 上	視聴数 1, 120 回
ギャラリートーク動画	R6. 6. 18～	同 上	視聴数 2, 124 回
計			3, 382 人・回 (うちオンライン 3, 244 回)

〔復活！ 横尾忠則の髑髏まつり〕

(令和 8 年 3 月末時点)

事業名	開催・配信日	出演者・講師	参加者数
ギャラリー・ツアー	R7. 10. 12 11. 15 (2 回) 12. 14 12. 20	当館学芸員	44 人
PR 動画	R7. 10. 13～	同 上	視聴数 1, 950 回
ギャラリートーク動画	R7. 10. 13～	同 上	視聴数 2, 019 回
講演会「ちょっと真面目な髑髏のお話」	R7. 11. 23	シヤレコーベミュージアム館長 山本佳代	37 人
計			4, 050 人・回 (うちオンライン 3, 969 回)

〔大横尾辞苑〕

(令和 8 年 3 月末時点)

事業名	開催・配信日	出演者・講師	参加者数
キュレーターズ・トーク	R8. 2. 8 3. 8 4. 18	当館学芸員	43 人
PR 動画	R8. 2. 19～	同 上	視聴数 559 回
ギャラリートーク動画	R8. 2. 19～	同 上	視聴数 1, 141 回
計			1, 743 人・回 (うちオンライン 1, 700 回)

② オープンスタジオコンサート等（当館 1 階）

地域のにぎわいづくりと、当館の新たなファン層の拡大をめざし、4つのコンサートを開催した。

イベント名	開催日	出演者	参加者数
鞆（ふいご）楽器でめぐる欧州音楽の旅	R7. 5. 31	鞆座	118人
シヨスタコービッチ チクルスコンサート	R7. 9. 28	TAKEZAKI Quartet	124人
1 DAY JAZZ ROAD Unit Tre JAZZ STAGE	R7. 10. 18	角家 道子 河村 孝彦 鷺見 和広	130人
吉田省念ライブ「爆発的凝縮」	R8. 3. 21	吉田省念 千葉広樹 山内弘太	102人
計			474 人

（４）作品・資料等の保存・修復活動

収蔵作品及び資料を良好な状態で保存するため、劣化要因（温湿度、光、空気汚染物質、有害生物など）を制御、排除することで、館内環境を良好に保つよう努めた。修復に際しては、作品のオリジナル性を熟慮したうえで作品の現状維持修復を原則に必要な最小限度の修復処置を心がけるとともに、電気製品を用いた作品やその他ミクストメディア作品については、各分野の専門家と協力し多角的な視点で修復に取り組んだ。

（５）ひょうごプレミアム芸術デーの実施

令和4年度から芸術文化を気軽に楽しめる機会として、県立芸術文化施設を無料開放する「ひょうごプレミアム芸術デー」が設定され、当館でも実施した。

期 間：令和7年7月9日（水）～15日（火）（7日間）

内 容：① 展覧会の無料開放（展示入場者数 1,335人）

② 自由に話せる観覧日（7月13日） ※毎月第2日曜日に実施

③ 特別イベント「音遊びの会と大友良英inY+T MOCA（R7. 7. 12）」

(6) 連携によるにぎわいづくり

① 地域との連携

(ア) 地域住民・商店街等との連携

- ・ 駅、商店街等へのポスターやチラシの配布
- ・ 地元関係者の内覧会への招待
- ・ 「ミュージアムロード美術館応援店MAP」取組への参画
- ・ 神戸大学学園祭、神戸市外国語大学学園祭、灘チャレンジ実行委員会（神戸大学学生を中心に運営）等への協賛

(イ) 美かえるカラフルマルシェの開催

ミュージアムロード沿いの阪神電鉄、シマブンコーポレーション、地元商店、県立美術館と共催するアートを軸とした賑わいづくりイベント。（平成28年～）

ワークショップやグルメ&物販など家族で楽しめるイベント形式で開催され、当館は、兵庫教育大学と連携し、産業活動から生じた余剰品を活用してクリスマスリースを作るワークショップを実施した。

② 団体等との連携

日本自動車連盟（JAF）、コープこうべ等と団体割引提携を行い、会員等の来館促進を図った。（令和7年度実績／JAF：1,305人、コープこうべ928人）

③ 他館との連携

(ア) 協会の管理運営施設（芸術文化センター、尼崎青少年創造劇場）

- ・ 定期公演の半券で割引

(イ) 周辺文化施設（神戸文学館、王子動物園、BBプラザ美術館、県立美術館 等）

- ・ 相互のポスター・チラシの掲示
- ・ 県立美術館とは、半券提示での相互割引を実施

(ウ) 国内の美術館等

- ・ 横尾氏関連の美術館として広報連携 豊島横尾館、西脇市岡之山美術館
- ・ せとうち美術館ネットワーク（関西～九州の86施設が参加）や「瀬戸芸美術館連携」プロジェクト（兵庫、岡山、香川県内の8館で構成）への参画
- ・ KOBEミュージアムリンク（神戸市内の美術館・博物館・資料館21館で構成）への参画

(7) 情報の提供・広報

『横尾芸術の一大拠点』、『様々な芸術に触れることのできる場』、『国内外の美術館等との連携』、『参加・体験型のミュージアム』といった当館の魅力を、様々な媒体により、幅広い層に伝えるとともに、ミュージアムロードをはじめとする地域との連携も図りながら、効果的な広報活動を展開。

① 展覧会毎の取組

- (ア) 県庁記者クラブへの情報提供、記者説明会の開催
- (イ) 横尾氏がデザインしたチラシ・ポスター等の配布
- (ウ) 神戸街めぐり 1 day クーポンや神戸観光スマートパスポートでの販売（神戸観光局）や、オンラインでのチケット販売（楽天チケット、ソノリゴ）
- (エ) 交通広告（阪急、山陽）の実施
- (オ) 三宮センター街へ展覧会 PR 用大型懸垂幕を設置
- (カ) 展覧会関連事業を通じた話題づくり（動画配信など）
- (キ) 日本語、英語による SNS 広告の活用（Facebook／Instagram、ホームページ誘導 10,905 回）
- (ク) 訪日旅行者向けサイトへの広告配信（WABITABI ホームページ誘導 5,616 回）

② 年間を通じた取組

(ア) マスメディアの活用

- ・テレビ・ラジオのニュース・特集番組、新聞・雑誌等

(イ) 県広報誌（県民だよりひょうご）、兵庫ジャーナル等

(ウ) 国際的なPR

- ・英語字幕付きのYouTube 動画の制作・配信
- ・神戸 PR アンバサダー（在住外国人）の展覧会招待及び参加者による SNS 発信
※外国人来館者数：603 人（R6 年度：400 人）

(エ) インターネットによる情報発信（<https://www.ytmoca.jp>）

- ・館ホームページ、X（旧ツイッター）、フェイスブック、インスタグラム
- ・フォロワー数約 35 万人を持つ横尾氏の X（旧ツイッター）との連携
- ・当館公式ユーチューブチャンネルを開設（R2 年 8 月～）
ギャラリートーク（字幕：日・英）や当館学芸員が美術館の仕事の概要を語る「Y+TMOCA の舞台裏」（字幕：日・英・中・韓）を配信

(オ) 各種情報誌、フリーペーパー等への掲載

(カ) 横尾氏の連載

- ・週刊新潮「曖昧礼賛ときどきドンマイ」
- ・週刊読書人「日常の向こう側ぼくの内側」
- ・月刊神戸っ子「神戸で始まって神戸で終る」
- ・朝日新聞書評

〔参考：掲載等の状況〕

	新 聞
横尾忠則の肉体派宣言展	特集記事（展評等） 2 回 案内記事（開催情報等） 10 回
復活！横尾忠則の髑髏まつり	特集記事（展評等） 3 回 案内記事（開催情報等） 4 回
大横尾辞苑	特集記事（展評等） 7 回 案内記事（開催情報等） 33 回

3 その他、施設利用者の利便向上への取り組み（収益事業）

- ・有料駐車場の運営（時間貸、収容台数 31 台）
- ・カフェスペースの貸出（横尾忠則現代美術館）
- ・関連グッズショップのショップ設置・運営（横尾忠則現代美術館）
- ・飲料自動販売機の設置（2 台）

〔本部の事業（概要）〕

芸術文化の普及・啓発

1 主催事業

（１）芸術文化活動の表彰事業

県の芸術文化の高揚を図るため、将来の活躍が期待される音楽家を対象とする「坂井時忠音楽賞」、功績のあった女性洋画家を対象とする「亀高文子記念―赤艸社賞」、地域の伝統文化の継承等に貢献した個人・団体を対象とする「ふるさと文化賞」などの表彰事業を実施した。

（２）コンクール、展示事業

県民の創作活動を後押し、世代や分野を超えた人々の交流の場づくりを進めるため、広く県民を対象とした「兵庫ふれあい美術展」を開催した。また、新進美術家等に発表機会を提供するとともに、県民が気軽に良質の美術作品を鑑賞できる場として、原田の森ギャラリーにおいて「美術作家交流展」を同時開催した。

（３）主催公演事業

子どもから大人まで優れた舞台芸術を身近に鑑賞でき、県内芸術団体等への活動機会を提供するため、小学校・高校や公立文化施設において「県民芸術劇場」を実施した（67 公演）。また、新進音楽家等に発表機会を提供するとともに、県民が気軽に良質の舞台芸術を鑑賞できる場として、兵庫県立芸術文化センターのほか県内文化施設等においてロビーコンサート、リサイタル等を開催した。

（４）講座・体験等事業

県民の高い学習意欲に応えるため、県立美術館、博物館、芸術文化団体等と連携・協力し、「兵庫県生活文化大学」を開催し、歴史、美術、音楽等の多彩な分野の講座を提供した（通年講座：8 講座、短期講座：4 講座）。

伝統文化の普及・継承を図るため、子どもから大人まで幅広い層の県民が伝統文化を体験できる「伝統文化体験教室」を実施した。

2 芸術文化団体等との連携事業

地域文化の向上・振興を図るため、7つの地域文化団体で構成される兵庫県地域文化団体協議会と連携し、各地域の特色を活かした事業の推進を支援した。

各種イベント等を通じて県下に芸術文化のすそ野を拡げるため、様々なジャンルの県域芸術文化団体や地域文化団体、市町等と連携・協力し、「ふれあい文化の祭典―県民文化普及事業」を展開した（22 事業）。

県内各地域で舞台芸術を鑑賞できる機会をつくるとともに、県内芸術家の公演経費を支援することで優れた芸術家の育成に繋げる「地域で親しむ舞台芸術応援事業」を実施した。

3 ひょうごアーティストサロンによる県内アーティストへの支援事業

「ひょうごアーティストサロン」を神戸情報文化ビルに置き、芸術文化関係者の交流・連携、相談や情報発信等の機能を担った。新進・若手アーティストを対象とした美術作品展、ロビーコンサート、リサイタルの開催、アーティストサロン賞の贈呈などを行った。

4 情報の提供

県民の芸術文化への関心を高め参加を促すため、協会や関係文化施設、芸術文化団体等の情報を掲載した情報紙「すずかけ」の毎月発行、ホームページやSNSを活用して当協会主催イベントの情報発信などを行った。

〔本部の事業（評価）〕

1 主催事業

（１）「坂井時忠音楽賞」、「亀高文子記念一赤艸社賞」は、音楽や美術関係者からの評価が高く、アーティストが目指す賞として定着しており、受賞者にとって今後の大きな励みとなっている。「ふるさと文化賞」では、永年にわたり地域の文化を守り育ててきた方々を顕彰し広く情報発信することで、活動に取り組む意欲を高めている。

（２）「第 31 回兵庫ふれあい美術展」を公募により開催し、美術創作に親しむ県民に作品展示の機会を提供するとともに、分野や世代を超えた人々の美術を通じた交流の場とした（絵画、工芸、書など 7 分野。出品数 224 点、出品者年齢 16 歳～90 歳）。

原田の森ギャラリー等で開催してきた「新進美術家作品展」等は、作家にとって貴重な発表の場となるとともに、県民が気軽に美術鑑賞できる場としての評価を得ることができた。

（３）「県民芸術劇場」は、公演を希望する学校やホールが令和 6 年度よりも減少したものの（令和 6 年度：85→令和 7 年度：67）、県の事業改善レビュー意見を踏まえて実施した Web アンケートでは鑑賞した児童・生徒の約 94%から「良かった」との回答があった。

横尾忠則現代美術館や兵庫県立芸術文化センターのほか県内文化施設等で開催している若手音楽家等によるコンサート、リサイタル（計 23 公演）では、アーティストの活動機会を拡大させるとともに、県民が気軽に舞台芸術に触れる機会をつくることができた。

（４）「兵庫県生活文化大学」は、当初計画した通年 8 講座を開催することができた。講師には、第一線で活躍する研究者・実務者を依頼しており、受講者アンケートでは、「最新の研究成果が学べる」「分かりやすく楽しい」など好評を得ている。

「伝統文化体験教室」は、HP、SNS や学校と家庭とをつなぐ連絡システムを活用して周知を図り、親子連れを含む多くの方に伝統文化の魅力を伝えることができた。「初めてだったが親切に教えてもらえて楽しかった」「須磨琴の歴史を知ることができ、さらに興味を持った」などの感想が寄せられた。

2 芸術文化団体等との連携事業

「ふれあい文化の祭典－県民文化普及事業」を、県域又は地域の芸術文化団体、市町等の連携により県内各地で開催した。約 2 万 5 千人の参加があり、県内全域への文化のすそ野の拡大や交流の場づくりに寄与した。

「地域で親しむ舞台芸術応援事業」では、県内各地域で県民が舞台芸術を鑑賞できる機会をつくるとともに、県内芸術家の公演活動を支援することで、優れた芸術家の成長と育成につなげた（全 44 公演、鑑賞者数 13,957 人）。公演主催者からは「若手 2 人のピアノ技術の高さに観客が驚いていた」「事前レクチャーにより初めて落語を観た方にも楽しんでいただけた」などの感想が寄せられた。

3 ひょうごアーティストサロンによる県内アーティストへの支援事業

芸術文化コーディネーターを中心にネットワークをつくり、多様な分野の芸術文化関係者が交流・連携ができる場として機能している。発表の場としての展覧会・リサイタル等の企画・実施、ひょうごアーティストサロン賞の贈呈等は、新進・若手アーティストの育成や活動意欲の向上につながっている。また、県民会館の閉館に伴い会場変更したが、横尾忠則現代美術館で実施したミュージアムコンサートは、美術館との連携による新たな価値の創造に寄与するとともに、リサイタルシリーズでは、世界的なアーティストも出演する兵庫県立芸術文化センターの小ホールに立つことで、出演者のモチベーション向上にも繋がった。

4 情報の提供

協会の各施設や関係文化施設、芸術文化団体等の情報を掲載した情報紙「すずかけ」を毎月発行した。チラシ等の印刷媒体、ホームページや SNS などの手法と相まって、芸術文化に関する多彩な情報を多くの県民に届けることができた。

〔本部の事業（詳細）〕

1 主催事業

（１）芸術文化活動の表彰事業

① 第44回ふるさと文化賞

地域社会において、永年にわたりひたむきな努力を続け、伝統文化の継承に貢献するなど、その活動と功績が著しい1個人2団体に贈呈した。

【贈呈式】 令和8年2月17日

【会 場】 原田の森ギャラリー

【受賞者】	香美町三番叟保存会	（伝統民俗芸能・香美町）
	胡瓜山保存会	（伝統民俗芸能・丹波篠山市）
	清水 春江	（三味線・洲本市）

② 亀高文子記念^{せきそうしゃ}赤艸社賞

絵画の創作活動を通じて県民文化の高揚に功績があった女流洋画家に贈呈した。

【贈呈式】 令和8年1月20日

【会 場】 原田の森ギャラリー

【受賞者】 谷原 菜摘子（芦屋市）

③ 坂井時忠音楽賞

県内において音楽活動に優れた業績をあげ、将来の活躍が期待される音楽家を奨励するため贈呈した。

【贈呈式】 令和8年1月20日

【会 場】 原田の森ギャラリー

【受賞者】 三重野 奈緒（ピアノ・宝塚市）

④ ひょうごアーティストサロン賞（アーティストサロン事業）

ひょうごアーティストサロンの事業に積極的に参加し、将来一層の活躍が期待される新進・若手アーティストに贈呈した。

【贈呈式】 令和8年3月3日

【会 場】 原田の森ギャラリー

【受賞者】	〈アーティスト部門〉	植村 翔馬（クラリネット・神戸市）
		生駒 小織（彫刻・神戸市）
	〈協力者部門〉	該当なし

（２）コンクール、展示事業

① 第31回兵庫ふれあい美術展

県内の美術愛好家から日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・鈴懸の径絵画（兵庫の風物又は花をテーマとした洋画または日本画の小品）作品を公募し、全ての応募作品を展示するとともに、優秀な作品に知事賞等を贈呈した。

【会 期】 令和7年12月18日～21日

【会 場】 原田の森ギャラリー

【出品数】 224点

【入場者】 1,322人

② 新進美術家作品展（アーティストサロン事業）

県内各美術団体の協力を得て、新進作家を中心とした作品展を開催した。

・ひょうごアーティストサロン内

事業名	開催年月日	出展人数（人）	入場者（人）
兵庫二紀会選抜展	7. 4. 1～5. 31	2	138
兵庫県写真作家協会新進作家選抜展	7. 6. 2～7. 29	7	236
兵庫県美術家同盟新進作家選抜展	7. 8. 1～9. 30	11	134
兵庫の工芸 壁面を飾る	7. 10. 3～11. 29	3	78
兵庫県書作家協会選抜展	7. 12. 2～8. 1. 31	6	97
兵庫県日本画家連盟選抜展（※）	8. 2. 3～3. 31	7	123
合 計 199 日		36	806

（※）の期間中にサロン隣の交流コーナーでワークショップを2回開催

2月7日「日本画制作の向き合い方」 参加者7人

3月7日「日本画の絵の具に触れてみよう」 参加者3人

・原田の森ギャラリー東館2F展示室

事業名	開催年月日	出展人数（人）	入場者（人）
兵庫県彫刻家連盟特別展	7. 7. 30～8. 3	18	294
兵庫県美術家同盟会務委員展	7. 11. 26～30	37	432

・原田の森ギャラリー本館2F大展示室

事業名	開催年月日	出展人数（人）	入場者（人）
兵庫県美術作家交流展 ※兵庫ふれあい美術展と併催	7. 12. 18～21	19	1,172

（3）主催公演事業

① 県民芸術劇場

小学生・高校生、一般県民が優れた舞台芸術を身近に鑑賞し、県内芸術団体等が活動する機会として県民芸術劇場を開催した。

また、新規登録団体の公募、学校公演を鑑賞した児童・生徒へのアンケート実施等を通じて、事業の更なる普及に努めた。

種 別	7年度		協会支出額（千円）	
	公演ジャンル	公演数	入場者数	
一般公演		13	5,177	8,158
	演 劇	6	2,494	
	伝統芸能	1	174	
	音 楽	6	2,509	
高等学校公演		22	13,895	8,965
	演 劇	6	3,770	
	伝統芸能	7	3,907	
	音 楽	9	6,218	
小学校公演		32	12,880	6,614
	ミュージカル	3	1,050	
	演 劇	7	2,188	
	伝統芸能	2	1,000	
	音 楽	20	8,642	
合 計		67	31,952	23,737
				26,470

(注) 中学校公演は、全ての県内中学生を対象に「わくわくオーケストラ教室」等を実施していることから、県民芸術劇場の対象外としている。

② ひょうごアーティストサロン ミュージアムコンサート（アーティストサロン事業）

横尾忠則現代美術館のオープンスタジオを活用した新進・若手アーティスト等のコンサートを開催し、活動発表の場を提供した。

公 演 名	開催年月日	入場者（人）
上田仁美ピアノコンサート	7. 4. 12	123
上原かなえフルートコンサート	7. 6. 14	73
県立西宮高等学校音楽科 42 期生によるアンサンブルコンサート	7. 8. 9	88
須山由梨ピアノコンサート	7. 10. 11	83
前田真希ソプラノコンサート	7. 11. 8	47
尾崎夏子マリンバコンサート	7. 12. 13	64
反田沙耶クラリネットコンサート	8. 2. 14	73
厚味聡子ヴァイオリンコンサート	8. 3. 14	72
合 計 8 公演		623

③ 県内芸術家ロビーコンサート（アーティストサロン事業）

県内の新進・若手アーティストの活動の場の拡大を目指し、会場を県内の芸術文化施設等に広げて実施した。

公演名・会場名	開催年月日	出演者	入場者（人）
邦楽ノ演奏会【兵庫県立神戸生活創造センター】	7. 9. 13	折本慶太（箏・尺八） 宇野慶至（篠笛・尺八）	53
大屋市民センターロビーコンサート【大屋市民センター】	7. 9. 21	小松加奈（マリンバ） 蓬萊奈央（マリンバ）	70
2025 丹波の森フェスティバル 森のステージ【兵庫県立丹波の森公苑】	7. 10. 26	三原萌（フルート） 炭田絵梨（ピアノ）	200
立川正美サクソクスコンサート 【西脇市茜が丘複合施設 Miraie ビューループ】	7. 11. 22	立川正美（サクソフォン） 岡部桂永子（ピアノ）	70
高瀬舞ソプラノコンサート 【西脇市市民交流施設】	7. 11. 23	高瀬舞（ソプラノ） 稲山莉乃碧（ピアノ）	30
水田梁緒ピアノ・コンサート 【加東市やしろ国際学習塾】	7. 11. 30	水田梁緒（ピアノ）	101
クリスマスマーケット 2025 ロビーコンサート【明石市立文化博物館】	7. 12. 7	原田えみ（クラリネット） 本濱寿明（クラリネット） 吉本沙矢（バスクラリネット）	100
大神智絵／黒川雄司 色彩と癒しの旋律～サクソクスとピアノの調べ～【芦屋市立美術博物館】	8. 1. 31	大神智絵（サクソクス） 黒川雄司（ピアノ）	63
ピアノトリオコンサート【西宮市山口ホール】	8. 3. 8	十川朋子（ピアノ） 岡本伸一郎（ヴァイオリン） 寺田達郎（チェロ）	121

公演名・会場名	開催年月日	出演者	入場者（人）
クラリネットサロン 2026 スプリングコンサート【神戸市立北須磨文化センター】	8. 3. 28	久徳えみ（クラリネット） 水井理愛（ピアノ）	40
合 計 10 公演			848

④ ひょうごの新進芸術家 リサイタルシリーズ（アーティストサロン事業）

県立芸術文化センター 神戸女学院小ホールを利用し、「ひょうごの新進芸術家リサイタルシリーズ」を開催した。

事業実施にあたっては、出演者にリサイタルの企画から実施までのマネジメントを自ら経験させ、今後演奏家としての実務に役立てられるよう支援を行った。

公 演 名	開催年月日	入場者（人）
矢野百華ピアノリサイタル	7. 7. 3	212
吉田侑記ヴァイオリンリサイタル	7. 9. 11	184
前田紗希ソプラノリサイタル	7. 11. 11	159
南なつみサクソリサイタル	7. 12. 9	91
東海林茉奈ピアノリサイタル	8. 1. 27	339
合 計 5 公演		985

（４）講座・体験等事業

① 兵庫県生活文化大学

日々の暮らしに夢と潤いのある生活文化を創り育てるため、県立美術館、歴史博物館、考古博物館等に講師を依頼するなど、県や芸術文化団体と連携しながら最新の研究成果が学べる講座として、兵庫県生活文化大学を開催した。

【通年講座】

講 座 名		開催地	会 場	期間（回数）	通年受講 申 込 者 （実人）	年間受講者 （人）
神戸校	文化財 （県立美術館「芸術の館友の会」）	神戸市 ほか	神戸市立中央 区文化センタ ーほか	4～2 月（10）	39	431
	考古学 （県立考古博物館）			4～2 月（10）	48	477
	西洋美術 （県立美術館「芸術の館友の会」）			4～2 月（10）	60	598
	日本美術 （県立美術館「芸術の館友の会」）			4～2 月（10）	62	599
	ふるさとの歴史 （ひょうご歴史研究室）			5～2 月（10）	42	421
	音楽鑑賞 （兵庫県音楽活動推進会議）			5～3 月（10）	61	752
明石校	ふるさとの歴史 （県立歴史博物館）	明石市	明石市生涯学 習センター	4～2 月（10）	56	531
姫路校	ふるさとの歴史 （県立歴史博物館）	姫路市	兵庫県立歴史 博物館ほか	4～2 月（10）	48	484
合 計 8 講座				80 回	416	4, 293

※講座名欄の（ ）は共催団体等

【短期講座】

講 座 名	開催地	会 場	期間（回数）	受講者（人）
伝統芸能講座 能楽の世界「安宅」	西宮市	夙川能舞台瓦照苑 兵庫県立芸術文化センター	9月（2）	12
展覧会特別鑑賞講座 兵庫県立美術館 藤田嗣治×国吉康雄：二人のパラレル・キャリアー 百年目の再会」	神戸市	兵庫県立美術館	7月（1）	64
谷口義子先生と歩く 阪神間モダニズム建築を訪ねる～ヨドコウ迎賓館から芦屋川沿いに名建築を巡る～	芦屋市	ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅） 旧宮塚町住宅ほか	11月（1）	20
特別講座 小泉八雲をもっと楽しむ	神戸市 西宮市	神戸市立中央区文化センター 兵庫県立芸術文化センター	1月・2月（2）	157
合 計 4 講座			6回	253

② 風土と文化の歴史学

田辺真人園田学園大学名誉教授を講師に迎えて開催。「世界とは何か」「どのようなグローバルな世界が形成されてきたか」「世界の文化とは何か」といったテーマについて歴史的に考察した。

【開催日】 令和7年9月18日、10月9日、11月20日（3回）

【会 場】 神戸市立長田区文化センター別館 ピフレホール

【講 師】 田辺 真人氏（園田学園大学名誉教授）

【受講者数】 492 人

③ 伝統文化体験教室

関係文化団体等との共催で、体験教室を開催することにより、県民が伝統文化に触れる機会を提供した。

【時 期】 令和7年7月～令和8年2月

【回 数】 3回

【会 場】 神戸市立長田区文化センター・兵庫県公館 103 号室・兵庫県芸術文化協会

【参加団体】 兵庫県舞踊文化協会ほか2団体

教 室	共 催 団 体	参加者（人）
日舞のススメ	兵庫県舞踊文化協会	17
須磨琴のススメ	一絃須磨琴保存会	13
お箏のススメ	兵庫県箏絃連盟	16
合 計	3 分野（3 回）	46

④ 友の会会員事業の推進

芸術文化に関する学習や交流事業を通じて、生きがいくつりと相互の交流を図るため、友の会会員を対象とした事業を推進した。

	個人会員	ファミリー会員	団体会員
友の会会費	1 口 3,000 円	1 口 5,000 円	1 口 10,000 円
会 員 数	498 人	64 人（32 組）	35 団体

- 【特典】・文化情報紙「すずかけ」の送付（毎月）
- ・研修事業への参加・兵庫県生活文化大学等の受講料等の割引
 - ・指定美術館・博物館等の入館料割引
 - ・提携ホールのチケット料金やホテルの利用料金等の優待

2 芸術文化団体等との連携事業

（１）兵庫県地域文化団体協議会への支援

地域文化の向上と振興に貢献することを目的とする兵庫県地域文化団体協議会の事務局を担当し、県内７地域で活動する地域文化団体との連携を深めた。

【兵庫県地域文化団体協議会構成団体】

- ・阪神南文化振興団体連絡協議会
- ・阪神北文化振興団体連絡協議会
- ・東播磨文化団体連合会
- ・西播磨文化協会連絡協議会
- ・但馬文化協会
- ・丹波文化団体協議会
- ・淡路文化団体連絡協議会
- ・公益財団法人兵庫県芸術文化協会

① 地域文化団体との共同事業

兵庫県地域文化団体協議会が、各地域において地域の核となる文化団体協議会等と共同で文化事業を実施した。

文化団体名	事業名	開催年月日等
阪神南文化振興団体連絡協議会	第46回尼崎薪能 ～尼崎城野外能舞台	7. 10. 6 (会場：尼崎城野外能舞台)
阪神北文化振興団体連絡協議会	阪神北地域活動団体出演・出展 支援事業	7. 12. 6 (会場：宝塚市立西公民館)
東播磨文化団体連合会	文芸誌「東はりま文化子午線第 49号」の発行	8年3月発行
西播磨文化協会連絡協議会	西播磨地域ふれあい文化交流会	7. 10. 22 (会場：南光文化センター)
但馬文化協会	但馬文学のつどい 「-短詩型文学-たじま作品集」 第50集の発行	8年3月発行
丹波文化団体協議会	令和7年度日本の文化体験フェ スティバル	7. 8. 2 (会場：丹波の森公苑)
淡路文化団体連絡協議会	淡路文化の祭りとふるさと文化 の交流 第44回全淡短歌祭 第49回淡路島俳句大会 第47回淡路文学作品展	7. 9. 27 7. 11. 9 7. 11. 27～12. 4 (会場：洲本市立淡路文化史料館ほか)

② 地域文化を考えるシンポジウム

地域文化の活性化を図るため、阪神南地域に県内市町文化協会・団体の会員が一堂に会し、地域における文化振興の現状や課題、地域の特色を生かした事業の推進方策等について情報交換や協議を行った。

【開催日】 令和7年9月30日

【会 場】 西宮神社会館

【主 催】 阪神南文化振興団体協議会、兵庫県地域文化団体協議会、公益財団法人兵庫県芸術文化協会

【テーマ】 芸術・文化の魅力が地域をつなぐ

【内 容】 オープニングはアルカディア音楽芸術財団による演奏からはじまり、前半は「阪神間のモダニズムと具体美術を生んだ阪神南地域」と題して武庫川女子大学教授の三宅正弘氏による基調講演を実施。後半は引き続き三宅正弘をコーディネーターに招き、各地域文化団体の活動発表・交流会を実施。エンディングでは人形芝居えびす座等による伝統継承アトラクションを披露した。

【参加者】 県内各地文化関係者 144 人

(2) ふれあい文化の祭典－県民文化普及事業

県内全域に文化のすそ野を拡大していくため、県域又は地域の芸術文化団体、開催市町とともに実行委員会を立ち上げ、広報宣伝・観客誘致等の支援を行った。

事 業 名	開催年月日	会 場	参加者 (人)
日本の文化体験フェスティバル	7. 8. 2	丹波市	317
ひょうご民族芸能祭	7. 8. 3	福崎町	447
ひょうご演劇祭	7. 8. 19	明石市	186
アンサンブル・フェスティバル in ひょうご	7. 9. 14	西宮市	479
ひょうご邦楽の祭典	7. 9. 14	西宮市	457
ひょうご日本民謡フェスティバル	7. 9. 21	神戸市	597
ひょうごブラスフェスティバル	7. 9. 21	加古川市	2,050
兵庫県いけばな展 (淡路島会場)	7. 9. 27～28	洲本市	1,580
兵庫県交響楽祭	7. 9. 28	西宮市	915
ひょうご名流舞踊の会	7. 10. 5	神戸市	1,228
詩のフェスタひょうご	7. 10. 5	神戸市	125
ひょうご吟剣詩舞道祭	7. 10. 19	三田市	700
ひょうご洋舞フェスティバル	7. 11. 2	西宮市	852
音楽とダンスの祭典 inHyogo	7. 11. 3	神戸市	659
兵庫短歌祭	7. 11. 8	神戸市	277
兵庫県いけばな展 (神戸会場)	7. 11. 12～17	神戸市	8,504
全国手工芸美展 in ひょうご	7. 11. 14～16	神戸市	2,000
兵庫県茶道協会創立五十周年記念茶会	7. 11. 29	神戸市	487
和太鼓フェスティバル in 兵庫	7. 11. 30	三木市	1,043
西播磨文化フェスティバル	7. 12. 7	たつの市	407
兵庫ふれあい美術展	7. 12. 18～21	神戸市	1,322
東播磨文化フェスティバル	8. 3. 14	加東市	253
合 計			24,885

(3) 地域で親しむ舞台芸術応援事業

県内各地域で県民が舞台芸術を鑑賞できる機会をつくとともに、県内芸術家の公演活動を支援することで、優れた芸術家の成長と育成につなげるため、公演の経費を支援した。

【助成件数】 44 件

【助成内容】 演劇、音楽コンサート、県内落語家による名人寄席 等

【助成金額】 12,519 千円（助成率 1 / 2）

【上限額】

①地域Ⅰに所在する文化施設・・・500 千円

②地域Ⅰに所在する団体・・・250 千円

③地域Ⅱに所在する文化施設・・・1,000 千円

④地域Ⅱに所在する団体・・・500 千円

※地域Ⅰ：神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市
猪名川町

※地域Ⅱ：上記以外の市町

【鑑賞者数】 13,957 人

(4) 芸術文化団体等の事業への支援

芸術文化団体等が主催する文化振興事業に対し、後援、協賛するとともに、優秀作品に「兵庫県芸術文化協会賞」を贈った。

【後援事業件数】 198 件

【協会賞交付件数】 65 件

(5) 兵庫県文化賞受賞者懇話会への支援

兵庫県文化賞受賞者で構成される懇話会の事務局運営等を支援し、芸術文化の振興を図った。

3 ひょうごアーティストサロンによる県内アーティストへの支援事業

(1) 芸術文化関係者の交流・連携の促進

様々な分野の芸術文化関係者がアーティストサロンに集い、出会い、語らいの場として利用され、交流の拠点としてサロン機能を発揮した。

【来場者数】 1,893 人

(2) 相談・助言・斡旋事業の実施

芸術文化情報の収集・発信を通して蓄積した人材情報等に基づき、初心者から若手、中堅を問わず芸術文化活動に関する企画・PR方法等、様々な相談に応じた。

【相談件数】 212 件

【さわやかステージ斡旋件数】 9 件

(3) 若手アーティストの育成・支援

① 新進美術家作品展（再掲）

② ひょうごアーティストサロン ミュージアムコンサート（再掲）

③ 県内芸術家ロビーコンサート（再掲）

④ ひょうごの新進芸術家 リサイタルシリーズ（再掲）

4 情報の提供

(1) 文化情報紙「すずかけ」の発行

生活文化大学をはじめとする当協会主催事業や芸術文化団体主催事業など、芸術文化に関する情報を発信した。

- 【仕 様】 タブロイド版、4 ページ、外面 4 色刷り、内面単色刷り
【発 行】 毎月 1 回 各 5,000 部
【内 容】 ・生活文化大学やリサイクル等の主催事業、県内の芸術文化事業
・芸術文化センター事業、ピッコロシアター事業、王子分館事業
・友の会（おすすめスポット）たずね歩き
友の会の特典提携をしている文化施設とその周辺の文化資源を紹介
・各種文化情報

（２）文化情報の提供

兵庫県民会館に、文化情報紙、県内施設等の催し物案内チラシ等を配架し、多彩な文化情報を提供した。

（３）ホームページの運営（<https://hyogo-arts.or.jp>）

協会概要や本部事業、各施設の公演、展覧会事業等を幅広く紹介した。

- 【内 容】・協会概要
・事業案内（協会主催事業等）
・管理施設へのリンク

【アクセス数】58,070 件（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）

（４）その他多面的な広報活動

① SNSの運営

兵庫県に関係の深い新進・若手アーティスト等の発表の場の創出と鑑賞機会の提供を目的として、YouTube チャンネルにおいて、アーティストの動画作品 118 本及び県民芸術劇場登録団体 P R 動画 91 本を配信した。X（旧 Twitter）、Facebook、Instagram を活用して、兵庫県生活文化大学等の各種講座や展覧会、コンサート等のイベント情報等を発信した。

- ・YouTube チャンネル登録者数 4,220 人（令和 8. 3. 31 時点）
- ・X（旧 Twitter）フォロワー数 670 人（ 〃 ）
- ・Facebook フォロワー数 420 人（ 〃 ）
- ・Instagram フォロワー数 1,022 人（ 〃 ）

② マスメディア等による情報提供

- ・テレビ、ラジオ、新聞等への記者発表、資料配付など

③ 県内文化施設等多様なチャンネルを活用した情報提供

県立美術館、県立歴史博物館、県立考古博物館等事業を共催している施設と連携して P R したほか、県内の文化施設や図書館、各教育機関を通じて情報発信を行った。

〔法人の運営体制の充実を図るための取組〕

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第 53 条第 2 号に基づき、当法人における運営体制の充実を図るための取組状況について、以下のとおり報告する。

1 公益法人内部における規範

- ・法令改正等に対応するため、各種規程について適宜見直しを行うとともに、職員への周知を行い、運用の適正化に努めている。
- ・法令を遵守し、透明性の高い法人運営を行うため、個人情報保護規程、情報公開規程等を整備し、適正な業務執行に努めた。

2 法人運営における具体的取組

- ・理事長及び業務執行理事による定例会議を毎月開催し、各事業の進捗状況、課題及び重要事項について情報共有及び協議を行っている。
- ・各事業の運営に当たっては、外部有識者を含む専門の委員会における審議を踏まえ、事業内容を公正かつ適切に決定している。

3 不祥事の予防・発見の仕組み

- ・公益通報制度実施要綱を整備し、相談・通報体制を設けることで、不祥事の未然防止及び早期発見に努めている。
- ・ハラスメント防止のため、ハラスメントに該当する行為等について職員に周知するとともに、各施設に相談窓口を設置し、予防及び相談対応に係る体制を整備している。

4 事業の効果に係る定性的・定量的測定

- ・講座や公演事業等において参加者アンケートを実施し、利用者ニーズを把握するとともに、その結果を踏まえて事業内容の改善を行っている。
- ・運営施設の稼働率及び入場者数等を、各月ごとに測定するとともに、理事長及び業務執行理事の間で共有し、課題の把握及び運営改善に活用している。